

かほくがた

河北潟湖沼研究所通信 Vol.10 No.2

「いしかわ環境フェア2004」にブース展示で参加



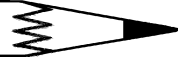
『いしかわ環境フェア2004 - ふるさと石川の環境を守ろう、育てよう - 』（主催：社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議、後援：石川県）は、平成16年8月21日（土）、22日（日）に、石川県産業展示館2号館でおこなわれました。河北潟湖沼研究所は、今年もこのイベントに、ブース展示で参加しました。

今年は、研究成果の展示として、河北潟でのGPSの応用についてパネルと液晶プロジェクターを使った展示を行いました。その他、研究所の活動紹介や、「河北潟の生物を

スケッチしよう」、「河北潟 - 湖の自然の風景をパズルにして遊ぼう」といった参加型のコーナーも設け、多彩な企画となりました。

また、「第1回河北潟将来構想」の応募作品をまとめたパンフレットの配布と、引き続いて第2回の募集の宣伝もおこないました。「いしかわ環境フェア2004」には、企業などの出展の他、市民団体としては河北潟湖沼研究所の他に、「いしかわビオトープ交流会」、「滝ヶ原鞍掛山を愛する会」などが参加し、全体で1万人の入場者（主催者発表）でにぎわいました。

河北潟の沿岸をって行った人々



大伴家持（おおとものやかもち・718? ~ 785）

能登の国は養老二年（718）越前から分国されたが、天平十三年（741）～天平宝字元年（757）の間、一時、越中国に合併されていた時期があった。ちょうどその時期、天平十八年（746）8月、万葉集編纂の中心的存在といわれる家持は、越中の国主として伏木へ赴任した。陸路、奈良から津幡町の萩坂谷を通り、俱利伽羅峠を越え越中に入ったという。詳細は「河北潟総合研究」7巻2004年3月号に記したので、参照のこと。

源（木曾）義仲（みなもとのよしなか・1154 ~ 1184）

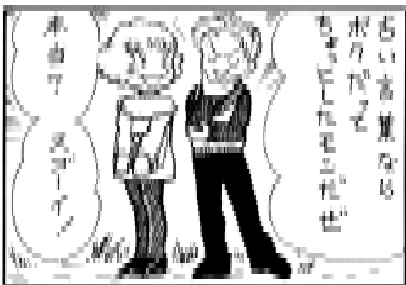
寿永二年（1183）5月11日深夜、砺波山（俱利伽羅峠）で火牛の計を用い平家を倒した義仲は、氷見経由で志雄方面へ向かったと「源平盛衰記」にある。5月25日、平家は宮越相良嶽（みやのこしさがらだけ・いまの金石大野湊神社のあたり）に、源氏は平岳野（ひらおかの・金沢駅南西の平岡野神社のあたり）に陣をとったとあるので、この間に河北潟の岸（多分東岸）を通ったと思われる。「平家物語」には、火牛の計は全く出てこないし、5月21日には篠原の合戦が書いてある。

源 義経（みなもとのよしつね・1159 ~ 1189）

文治（文治）二年（1186）兄頼朝に追われ、前年暮れ吉野山から姿をくらました義経は、安宅の関で弁慶の機転により、関を通過し、奥州へ逃れたといわれている。その道筋は色々伝えられている。いくつか挙げてみる。

【須須神社縁起】平家から義経の手に入った「蝉折れの笛」は、奥州落ちの時も彼の手の中にあつた。義経主従は、安宅の関を逃れ、宮越、佐奈武明神（さなたけみょうじん・前述の大野湊神社）で一夜を明かし、越中や能登の子浦（こうら・しほ・志雄）に捕縛のため待ち構えている軍勢を避け、鈴の三崎（原文のまま）へ下る舟に便乗した。その日の中頃、須須の浦（原文のまま）の沖合いで難風に遭い、須須権現に風の収まらん事、一行の無事を祈念して秘蔵の笛を奉納した。金石から内灘沖を舟で通過。

【能 安宅】安宅の関を勸進帳で逃れた義経一行は、今の金沢市春日町鹿島神社の境内へ。弁慶の忠義に心打たれた関守富樫が酒を持って追いつき、主従の奥州落ちの無事を祈った。その時弁慶は、境



内に流れ落ちる山水の落ちて響くのを聞き、即興で舞い歌った。「鳴るは瀧の水、日は照るとも、絶えずとうたり・・・」その後、この地を「鳴和」と呼ぶ。今も鹿島神社には、杉の木の芯を削りぬいた樋から落ちる小さな滝がある。忠臣たちは今後どうしようと集いて談義したので、ここを談義所と呼ぶ。この後、河北潟東岸を通ったかも。

【義経記 ぎけいき】義経一行は、篠原（片山津）に泊まり、次の日、安宅の渡り（梯川のこと・関ではない）を越えて根上りの松に着いた。白山を拜もうと、その日は岩本の十一面観音（辰口町岩本にあった）に泊まった。翌日、白山に参り、剣（つるぎ）の権現で御通夜した。あくる日、加賀国富樫（野々市のこと）に到った時、弁慶は一人で富樫の館を訪ね、前年兵火で焼けた東大寺再建の勸進（寄付）を依頼する。多量の勸進の品々は来月奈良へ上るまで預け、宮越（金石）まで馬で送られたが、義経の一行と会えず、大野の湊でやっと会えた。その日は（津幡町）竹橋に泊まり、あくる日、俱利伽羅山を越え、平家の人々に阿弥陀経を読み、菩提を弔った。北陸道を通っている。これらの記述は物語りであって、歴史ではないし、書かれた時代もまちまちである。（宮本真晴）

第1回「河北潟将来構想」募集について

NPO法人河北潟湖沼研究所事務局

第1回「河北潟将来構想」論文募集（募集期間：平成15年2月～16年3月）は、2名の方からご応募をいただきました。金沢大学名誉教授の大串龍一氏を委員長とする審査委員会により厳正な審査をおこないましたが、残念ながら入賞の該当ははなしという結果となりました。ご応募いただいた2名の方には、特別賞として審査委員表彰といたしました。

河北潟湖沼研究所では、引き続き第2回「河北潟将来構想」募集を実施致します。募集の詳細は4pをご覧ください。なお、今回の構想募集及び応募作品についての審査委員会からの総評を以下に掲載します。

総 評

北陸独自の気候風土のなかで形成され、この土地で生活してきた人々の長い歴史の中の営みを通じて今の形になってきた河北潟は、現代の30年余りの間に大きく変わってきました。

この河北潟とその周りの自然環境をどのように利用し、この地域に住む人達を中心として、ここに関わる人たちの心の暮らしと豊かさを高めてゆくためにどうすればよいか、それは河北潟に関心を持つ私たちみんなの考えるところです。

河北潟といっても、人によって思い浮かべるものは必ずしも同じではありません。ある人はこの広い湖を、またある人は作られた大きな干拓地を考えるでしょう。さらにこの湖を作り上げている海と山、それらをつなぐ幾つもの川といった地域全体を考えるかもしれません。そうしてそれらの場所にはそれぞれに長い歴史のなかで出来上がってきた人々の社会があります。この自然と歴史の恵みをこれからどのように生かしてゆくのが良いか、みんなで考えてゆぐためにひとつのきっかけともなればと思って、「河北潟の将来構想」の募集が始まりました。

河北潟湖沼研究所で募集しておりましたこの「河北潟の将来構想」につきましては、今回が初めての試みであり、私たちの間でももうひとつイメージが固まらず、従って募集の趣旨や応募の方法などを、広い範囲の方々によくご説明して募集して頂く準備をすることが出来ませんでした。このなかで今までに2編のご応募を頂きましたことについて、応募して下さいました方々に厚く御礼申し上げます。同時に河北潟の将来についていろいろと考えて、お考えを提示す

ることを望んでおられながら、私たちの募集に関する説明やお知らせの方が不十分であったために応募していただけなかった方々があったとすれば誠に申し訳なく思っております。初めの計画ではこれは河北潟湖沼研究所の10周年の記念事業として今回だけの企画として立案されたものですが、多くの方々から多様なご意見を出して頂くために、今回を第1回として応募されたご論考を公表し、引き続きこの企画を継続してゆくことと致しました。具体的な計画については、今回の経験を参考にしてより多くの方々がそれぞれのご意見を発表していただけるように、募集要項などをまとめてお知らせしたいと考えております。

今回応募いただいた2編のご論考は、それぞれに特徴があり読まれる方々のご参考となる点が多いと思います。鍛冶正啓さんの「河北潟・花の庭園美術館」は、干拓地を利用した市民の憩いの場と、広く全国・世界を対象とした観光名所を目指したかなり具体的な構想であり、田知本正夫さんの「河北潟の水質改善 - 食生活改善が水質を改善する」は、現在の日本の大問題である食料の自給と潟の水質改善を地域支援型農業という形でまとめた大きな構想であります。

このいずれも応募者の方のお考えをよく表した力作で、これからの河北潟のことを考える上でひとつの支点となるでしょう。お読みくださる皆様も、これをもとにしてそれぞれのお考えを発展させて頂けるものと期待しております。

初めの企画では数十編の応募作品の中から、1,2編を選んで河北潟湖沼研究所賞（仮称）として表彰させていただくことを考えておりましたが、何分にも応募して下さいました論文が少なく、比較するだけのデータが揃わないことと、この2編については全国の多くの場所に適応できる地域振興を目指した一般的な提案が主体であって、北陸の風土と社会の作り上げた河北潟という場所の特性を生かすという点で実際的な提案としてはまだ不十分なところが見られるために、今回はこの2編を審査委員会表彰という形で、ご努力に報いる事と致しました。

ここにご応募いただいたお二人に感謝すると共に、このご提案を参考とされて、夏の酷熱と冬の強風にさらされる河北潟干拓地の厳しい風土、周辺からの生活・産業排水の流入による水質汚染の進む調整池、低廉な輸入農産物の圧力の中でこの地で苦闘しておられる農業の担い手の人たちの現状により適応できるようなさまざまなご意見ご提案を、今回の応募者をも含む皆様方から頂けることを期待いたします。ご質問があれば事務局までご連絡下さい。

（審査委員会委員長 大串龍一）

お知らせ

第38回河北潟自然観察会

第38回河北潟自然観察会を以下の要領で行います。今回は、秋の野鳥の渡りの時期に重なりますので双眼鏡を用いての観察が主体になる見込みです。また、特別ゲストとして陸貝の専門家も参加いただく予定です。

日時 2004年10月3日(日)

午前9時～12時

集合地 こなん水辺公園駐車場(金沢市東蚊爪)
(金沢駅より自動車に便乗できますのでお問い合わせ下さい)

問い合わせ 特定非営利活動法人
河北潟湖沼研究所金沢事務局
: 076(261)6951
e-mail:kahoku_lake@hotmail.com



河北潟将来構想募集要項

趣旨

現在、河北潟が抱えている問題は、社会全体の問題であり、市民、行政、農家、消費者が一体となって取り組んでいかなければならない問題と私たちは考えております。環境問題は地域の総合的な取り組みを無視しては実現しません。これから目指すべきビジョン、地域に役立つ将来構想を広く募集します。

1. 応募の資格

・自然保護などに関心を持つ個人又は

グループ

2. 応募条件

・2000字以上の論文(設計図面、イラスト、映像などがあれば添付)

3. 募集期間

・2004年8月1日～2005年3月31日

4. 応募方法

・フロッピー、原稿用紙いずれも可
・郵送またはメールでも可

5. 審査

・実行委員会で審査し、入賞者に4月30日までに通知します。

問い合わせは河北潟湖沼研究所事務局(本部;以下の連絡先まで)まで。

6. 表彰

優秀論文には「河北潟湖沼研究所賞」を授与する。受賞者には副賞として中国視察旅行、又は10万円相当の賞品。

7. 送り先・連絡先

〒920-0267

石川県河北郡内灘町字大清台302

河北潟湖沼研究所事務局構想募集係

< 編集後記 >

自然再生事業が全国で進められています。大規模なものでは北海道の釧路湿原の再生事業、霞ヶ浦の湖岸再生などが有名です。しかし、こうした莫大な予算をかけた自然再生事業だけではなく、小規模な自然再生にも優れた事例はたくさんあります。最近、いくつかの視察やシンポジウムに参加しましたが、いちばん良い再生事業だと思ったのは、兵庫県豊岡市で市民団体が取り組んでいるビオトープ水田につくられた魚道でした。圃場整備後の高低差のある水田と水路の間を、うまく魚が行き来できるような手作りの工夫がされていました。(T)

「かほくがた」 VOL.10 NO.2

2004年9月22日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会

〒920-0051 金沢市二口町八58

河北潟湖沼研究所金沢事務局内

TEL: 076-261-6951 FAX: 076-265-3435